

中学校特別支援学級

作業学習指導案

日時 令和〇年 〇月 〇日 (〇)
 第〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
 場所 〇〇〇・〇〇〇
 授業者 教諭 〇〇 〇〇 (T 1)
 教諭 〇〇 〇〇 (T 2)
 教諭 〇〇 〇〇 (T 3)
 教諭 〇〇 〇〇 (T 4)
 指導員 (S 1) (S 2) (S 3)

1. 単元名 「写真立て作り」

2. 単元設定の理由

(1) 学級及び生徒の実態

(省略) 毎日の生活の中で日直、掃除分担、給食の配膳の分担などの係を決め、自分の役割を自覚して仕事をこなす生徒が多い。不得意なことや好きでないこと、また、気分が乗らないことに対して手を抜いてしまう生徒や落ち着いて作業に取り組むことが苦手な生徒もいる。個々に応じた支援をすることで、役割を果たし責任を持って取り組む生徒も増えている。生徒1人1人の障がいの程度に差があるため、より個に応じた支援が必要とされる。作業学習では作業の準備、片づけを分担してできるように取り組ませている。「集中」「返事」「報告」を大切に指導しているが、まだ徹底できていない所もある。コミュニケーションにおいては、相手に意志を伝えることが不得意な生徒もいるため、必要なことや困ったことがあった時は聞くことができる力を身につけるとともに、人間関係形成能力を一人一人の実態に合わせながら高めていく必要がある。様々な作品作りを通して、もの作りの喜びや達成感を得ている生徒も多くみられる。

(2) 単元について

木工加工作業は作業が容易にでき、いろいろな仕事の要素がある。寸法を測り、線を引く、のこぎり・糸のこぎり・糸鋸盤を使い文字や動物の形を切り出す、ヤスリで削る、紙やすりで磨く、金槌で釘を打ちつける、木ねじで締める、ボンドでの接着、デザイン・カラーリングなどがある。どの作業も繊細さと根気を要し簡単には行うことはできないが、地道な繰り返しの作業によって努力の成果が確認でき、達成感を得ることができる。キャリア教育の実践としても価値が大きく、将来の労働に直接つながり「生きる力」に大きく寄与するものである。

また、特別支援学級、通級クラス、交流クラス、校長室、事務室、保健室等に置く写真立てをプレゼントすることで、人の役に立てる喜びや有用感を持つことができ、自己肯定感が高められることも大きく期待できる。

(3) 指導・支援について

- 一人一人の実態を把握し、指導目標に沿って集団の中での個別化を心がけ指導する。
- これなら自分でもできるという「自己決定」の場面を取り入れながら、最後までやり通す態度を大切ににする。
- 生徒の実態に応じて、作業がやりやすいように作業内容や作業環境を整える。
- 見通しを持った作業にするため、具体的に内容を示す。
- 教師・指導員の役割分担を明確にし、指導内容、指導方法を共通理解して指導に当たる。
- 生徒のがんばったことやよくできたことなど、生徒の言動をよく観察し生徒の意欲喚起につながる指導を行う。また、自分の分担を責任もって最後までやり遂げられるように頑張らせ、作る喜びや達成感を味わわせ自己肯定感を育めるようにする。
- 服装を整え、手袋やゴーグル、マスク等を必要に応じて着せさせることで、作業に取り組むことへの意識を向上させる。
- 一つ一つの作業が将来の就労に役立つ。就労するにあたり、今必要な資質は何なのかを示し、「働く」ことへの意識づけの一助とする。

3. 単元の目標

- (1) 説明やわからないことは、聞くことができる。終わったら報告することができる。 (態度)
- (2) 作業の工程を最後まで責任をもって根気よく行うことができる。失敗してもやり直せる。 (態度)
- (3) 多様な活動を通して、心身の諸機能の向上を図り、作業に必要な知識や技能を身につける。 (知識、技能)
- (4) 仲間と仲良く協力して作業に取り組むことができる。 (態度)
- (5) もの作りを通して達成感を感じることができる。 (思考)

4. 指導計画

(1) 年間指導計画

1 学期	園芸・農作業
2 学期	木工道具の使い方、作品作り、農作業
3 学期	農作業、作品作り

(2) 単元の計画

- ① 木工工具 (のこぎり、万力、金づち、きり等) の基本的な使い方の学習…………… 6 時間
- ② 写真立て作り (切り出し、磨き、組立、装飾) …………… 1 4 時間
 - ・角材の固定の仕方、のこぎりのひき方を練習する。
 - ・紙やすりで磨く。木工ボンド、タッカーを使って組み立てる。
 - ・ニス塗りタイルを使って装飾を施す。

5. 本時の学習

(1) 共通目標

- ① 報告を忘れずに行い、わからないときは聞くことができる。 (態度)
- ② けがきの線を曲がらずに引き、のこぎりを正しく安全に使い、正確に引くことができる。 (知識、技能)
- ③ 型紙の上に材料を置き、接着剤とタッカーを使って接着し、歪まないよう組み立てること、はみ出た接着剤はきれいにふき取ることができる。 (技能)
- ④ むらがでないようにニスを塗り、タイルの配列を間違えずグルーガンで適量の接着を行うことができる。 (技能)

(3) 本時の展開

	学習内容	○生徒の活動 □指導者の主な指示、発問等 ※指導の手だて ※評価の観点	資料等
準備・導入	1 あいさつ、出席調べ、持ち物の確認。 2 教師の話聞く。	○あいさつをして班長が出席調べや持ち物の確認をする。 □名前を呼ばれたらしっかり返事をしましょう。 □先生の顔を1分間見てください。これから行うことや注意事項を確認します。 ※話を聞くとときに正対させ、手悪さをさせないよう支援する。 ※授業内容や諸注意・確認事項を理解できたか。	班ごとの出席簿
展開	3 作業場所に移動して、担当の教師からの話を聞く。 4 各班長が目標を発表する。 5 材料と道具を用意し、それぞれ3つの班で作業を行う。 【切りだし班】 ・材料を切る。 【組立班】 ・組み立てを行う。 【装飾班】 ・ニス塗り、タイルの装飾を施す。	□組み立て班と装飾班は整列して金工室へ移動します。 ※担当の教師が先頭になり誘導し、所定の席につかせる。 □今日の目標を班長さんが発表するので、班長さんの顔を見て聞きましょう。 ※活動に取り掛かれない生徒には、支援を行う。 ○道具を正しく使い、決められた大きさに材料を切る。 ※整理整頓など作業環境を整えながら作業を進める。 □鋸の刃の進む方向に手を置かないこと、鋸を置くときは机からはみ出さないように置きましょう。わからないことは必ず聞いてください。 ※手袋、ゴーグルを着用させ、所定の場所で行わせる。 ※万力に材料をしっかりと固定させる。 ※鋸の刃の選択を注意させる。 ※部品が全てあるか確認するため、切った材料は型紙の上に置かせる。 ※ベニヤを切るときは鋸の刃の角度に注意させる。 ※線の上を切ることができたか。 ※板に対して鋸を垂直に保って切ることができたか。 ※わからないことがあった時に聞くことができたか。 ※部材をまとめて担当教師の所へ運び、確認してもらおうときは「できました、確認よろしく願います」と言うことができたか。 ○報告した後に完成表にチェックを入れる。 ○所定の場所で、自分の必要な道具を使い組み立てを行う □木枠を使い組み方を間違えないよう、また歪みが出ないように組み立てましょう。ボンドがはみ出た場合は布でふきましょう。 □材料の長さが合わない場合は先生に報告をしてください。わからないことは必ず聞いてください。 ※作業環境を整えながら作業を進める。 ※ベルトサンダーで長さを調整する。 ※見本と比較させ、仕上がり具合を確認させながら取り組ませる。 ※サンダーとやすりで板全体をていねいに磨く。 ※軽く面取りをさせる。 ※歪みが出ないよう組み立てることができたか。 ※わからないことがあった時に聞くことができたか。 ※確認してもらおうときは「できました、確認よろしく願います」と言うことができたか。 ○報告した後に完成表にチェックを入れる。 ○ニス塗り、型紙を使いながらタイルを丁寧に貼る。 □ニスを塗るときはニスが下に垂れないように塗りましょう。タイルをはるときは、必ず型紙を使ってください。 ※作業環境を整えながら作業を進める。 ※材料を吊り適量のニスを塗らせる。 ※所定の場所で行わせ、集中させふざけさせない。	杉板、ベニヤ 鋸4つ 型木5種類 型紙 鉛筆 ゴーグル4つ 手袋4つ マスク4つ 型枠4つ 接着剤 タッカー2つ へら4つ 接着剤を出す木 サンダー2つ 布 手袋 ニス ピン14個 はけ7つ 吊るし棒セット 針金30本 はけ置き7つ

		※見本と比較させ、仕上がり具合を確認させながら取り組ませる。 ※ニスが乾いていることを確認させ、型紙を使いタイルをグルーガンで接着させる ＊わからないことがあった時に聞くことができたか ＊確認してもらうときは「できました、確認よろしくお願ひします」と言うことができたか。 ○報告した後に完成表にチェックを入れる。	新聞紙 グルーガン4つ グルーガン置き タイル
整理	6 道具の片づけ、掃除を行う。 7 片づけ掃除の終了報告をする。 8 自己評価をする。 9 発表をする。 10.教師の話を聞く。 11.終わりのあいさつをする。	○元の場所に道具を片づける。 ○作業した場所を掃除する。 ＊きちんと道具を戻せたか。 ＊きちんと掃除ができたか。 ○班長は片付けや掃除終了報告を担当教師にする。 ○金工室に集合する。 □整列入場させ静かに集合させる。 ○作業ノートに自己評価をする。 ○各班の作業の進み具合（個数等）や本日の反省や課題、 ○感想を発表する。 ※仲間の話を聞き、共感させることの大切さも知らせる。 ＊班や個人の振り返りや、発表を聞き次時への課題や意欲を持つことができたか。 ＊教師の話を聞きさらに深めることができたか。 ○正対させ手悪さや話をしないで教師を見て話を聞く。 □しっかりと挨拶させる。	学習カード

6 本時の評価

(1) 共有目標に係る評価

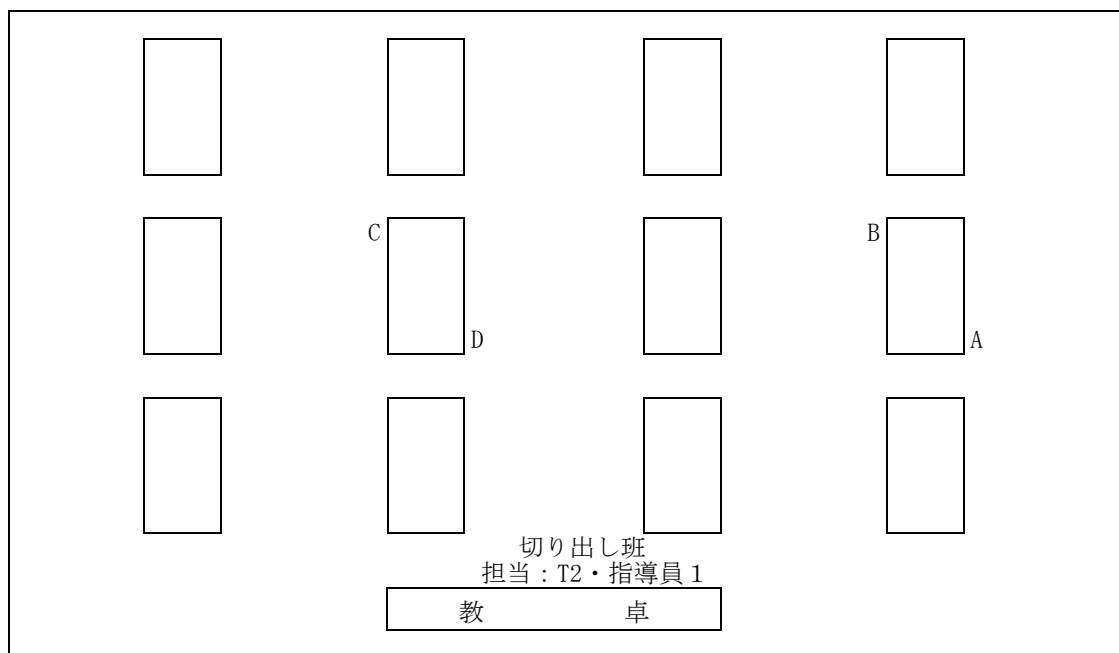
- ①報告を忘れずに行い、わからないときは聞くことができたか。
- ②けがきの線を曲がらずに引き、のこぎりを正しく安全に使い、正確に引くことができたか。
- ③型紙の上に材料を置き、接着剤とタッカーを使って接着し、歪まないよう組み立てること、はみ出た接着剤はきれいにふき取ることができたか。
- ④むらがでないようにニスを塗り、タイルの配列を間違えずグルーガンで適量の接着を行うことができたか。

(2) 個人目標に係る評価 (省略)

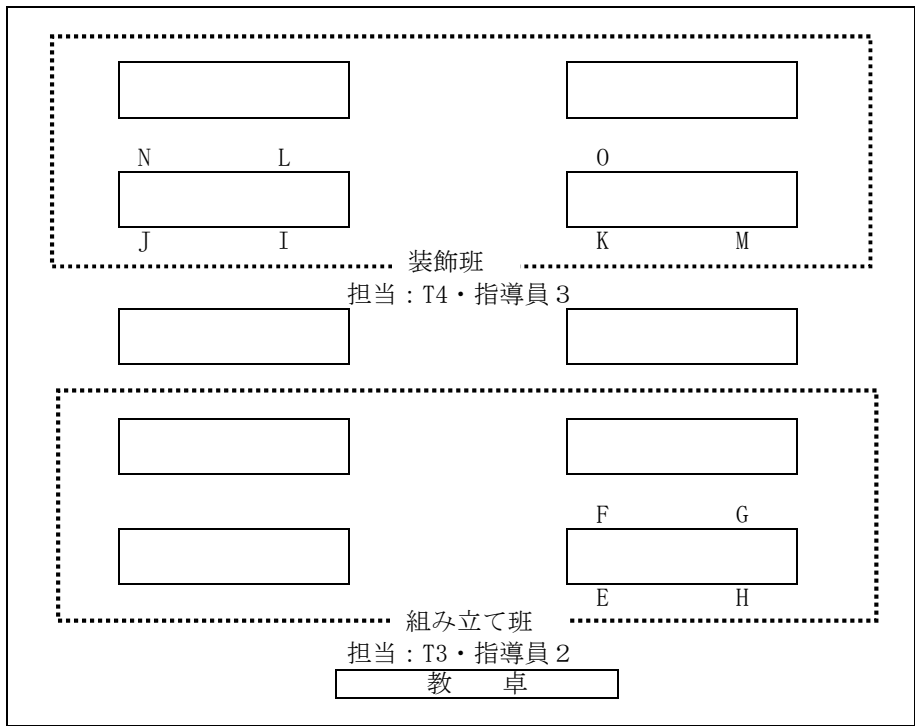
7 教室環境図

【座席と担当、作業内容の種別】

木工室：切り出し班



金工室：組み立て班、装飾班



全体指導・調整：T1

授業の流れ	作業の原則
13:50 あいさつ、出席調べ	・わからないことは聞くこと。
13:55 担当の先生の話聞く 班長目標発表	・報告をすること。
14:00 それぞれの班で作業を始める	・むだ話はしないこと。
14:25 作業終了・片づけ	・先生の話聞き、自分勝手なことはしないこと。
14:35 自己評価・発表・教師の話聞く	・ふざけないで集中して取り組むこと
14:40 あいさつ	・道具をていねいに安全に扱い、決められた場所におくこと。
	・そうじ、整理整頓をしっかりと行うこと。

【切り出し班手順書】

- 1 型木を使ってけがきを行う。
- 2 木材を万力で固定する。
- 3 切った部品は、型紙の上に置く。
- 4 全部切り終わったら、先生に報告する。
- 5 部品を輪ゴムで一つにまとめ、完成表に記入してから組み立て班に持っていく

【組み立て班手順書】

- 1 型枠に部品を間違えないように置く。
- 2 ボンドでへらを使って接着し、先生に「タッカーをお願いします」と報告する。はみ出たボンドは布でふき取る
- 3 ベニヤをボンドではる前に仮置きして、長さがちょうどよいか確認して、長い場合は先生に報告をして長さを調整してもらう。
- 4 ベニヤをボンドで接着したら、先生に報告する。
- 5 ボンドが乾いている物から、サンダーを使いやすりがけしていく。
(音がうるさいため、ベランダで行う)
- 6 完成表に記入してから装飾班に持っていく。

接着の順番

【装飾班手順書】

- 1 部品をしっかりとつるす。ニス塗るときはできるだけ下に垂れないように塗る。
- 2 しっかり乾燥するまではつるしておく。
- 3 タイルを型紙を使って、グルーガンで接着していく。接着剤がはみ出さないように注意する。
- 4 それぞれ担当する作業が終了したら先生に報告をし、完成表に記入する。